

「日本の財政」

～伝わる広報を目指して実践～



財務部の若手・中堅職員を中心としたプロジェクトチームである「美らざいコネクト」(美らコネ)は、令和3年12月8日、沖縄国際大学の1年生(110名)を対象に、寸劇を取り入れるなどの工夫をこらして、財政授業を実施しました。



日本の財政の現状と政府の取組を説明

日本の財政の現状と政府の取組として、①歳出に必要な財源は、税金による収入(税収)などで賄うことが求められています。②「社会保障」の大きな伸びによって、「公債金」という借金に依存していること、③この借金の返済には、将来世代の税収等が充てられることになるため、将来世代へ負担を先送りしている状況であること、④現在、この先送りの状況を打開し、社会保障制度を次世代に引き渡すため、消費税率引上げによる増収分は、全て社会保障に充て、待機児童の解消や幼児教育・保育の無償化など子育て世代のためにも充当し、「全世代型」の社会保障に転換していることなどを説明しました。

みんなの将来のために
財政について考える

「パンフレットや資料の説明などでは、日本の財政の現状について、身近に感じることがないのでは」という若手職員の指摘から、大学生の皆さんにも伝わるよう、身近な公共サービスを演題に寸劇を交えて説明しました。

大学生にとっても 身近な公共サービスの説明

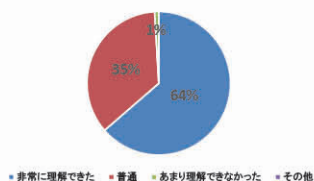


身近な公共サービスを寸劇で説明

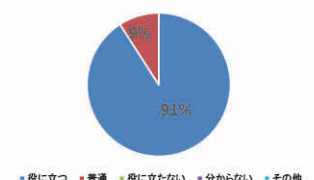
お問合せ先
財務部 財務課(地域連携担当)
☎ 098-866-0091

美らコネは、今後も、受け手側の立場に立ち、「伝わる広報」を心がけながら、日本の財政について広報していく予定です。左記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

「日本の財政」について、理解が深まりましたか。



寸劇は、財政を理解するのに役立ちましたか。



所得税などの税金(税収)は、救急車やごみ収集車の財源となっていることなどを伝える役を演じました。

授業後に実施したアンケートでは、「今後、社会保障制度の維持が懸念されるため、私達は他人事で終わらせるのではなく、積極的に考えていかないといけないと思いました。」「社会保障は高齢者のイメージが強かったけれども、身近に使われていて、税金に対しての意識が変わりました。」などの声がありました。